

第2回尾鷲市地方創生会議 議事録

目 的	令和3年度第2回尾鷲市地方創生会議
-----	-------------------

日 時	令和4年2月3日(木) 18:00~20:00
-----	-------------------------

場 所	尾鷲市役所 3階 第2・3委員会室
-----	-------------------

内 容
出席委員：尾鷲市婦人の会連絡協議会 会長 塩津 史子 紀北信用金庫 常勤理事 奥村 浩之 株式会社ZTV 東紀州放送局 顧問 中西 加寿代 株式会社三重ティーエルオー 取締役副社長 松井 純 三重外湾漁業協同組合 尾鷲事業所 所長 山崎 孝治
欠 席：尾鷲公共職業安定所 所長 東 久文 尾鷲商工会議所 会頭 伊藤 整 尾鷲市林業振興協議会 会長 疇地 秀行
市出席者：政策調整課 課長 三鬼 望 参事 西村 美克 課長補佐兼企画調整係長 濱田 一多朗 主任 片原 敏貴
水産農林課 課長 芝山 有朋 調整監 丸茂 亮太
商工観光課 課長 森本 眞明
生涯学習課 課長 三鬼 基史 課長補佐兼生涯学習係長 丸田 智則
福祉保健課 課長 山口 修史 主幹兼高齢者福祉係長 川嶋 二郎 健康づくり係長 東 弓子
教育委員会教育総務課 課長 森下 陽之 学校教育調整監 植前 健
ランドブレイン(株) 前田 欣也
【事項書1 開会】
【事項書2 第2期尾鷲市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について】 【基本目標1について 事務局片原より説明】 それでは、説明させていただきます。 事前に送付いたしております「第2期尾鷲市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」について、総合戦略(案)冊子に沿って説明させていただきます。総合戦略(案)冊子の13ページをご覧ください。基本目標1「稼ぐまちをつくとともに、安心して働けるようにする」についてであります。ここに示した内容については前回の「第1回地方創生会議」でお示した内容となっております。 次のページをご覧ください。 まず、上段「(1) まちの特性に応じた、生産性が高く、稼ぐまちの実現」は、基本目標に基づく大項目で、こちらにつきましては、国の第2期総合戦略を加味した枠組みの項目であります。続いてその下には今回の総合戦略の横断的目標にもありますように、SDGsの17のゴールにそれぞれ紐づけしております。

次に①農業の担い手の確保・後継者対策と農業を支える施設・基盤整備は「第7次尾鷲市総合計画基本計画」に記載の主要施策と紐づけしており、()のなかは、総合計画のどこに記載があるのかを示しています。

その下の●の部分、今回第2期総合戦略で取り組む具体的な施策内容として関係各課で記載した内容となっており、上からスマート農業等に取り組む農家や法人の支援、農業経営の安定化支援、農業従事者の確保の取り組み、また、農業基盤の整備保全に取り組むこととしており、その下には表で各取り組みのおおまかなスケジュールを示しています。

次のページの上には、これらの取り組みが影響を与える評価指標として重要業績評価指標KPIを設定しており、最後にこれら取り組みの関連事業を記載しています。

次のページをご覧ください。

②農業の安定経営に向けた支援では、ニーズに基づく生産支援やICTなどを活用した販路開拓支援、6次産業化支援、有害鳥獣対策に取り組めます。スケジュールは御覧の通りで、KPIは農業経営体数、農業算出額、対象鳥獣捕獲頭数となっております。

次のページ③農地の保全と有効活用では、農業の担い手と農地を貸す側のマッチング支援や地域住民と話し合いを進め、農地の集約化や利用促進に取り組むとしており、KPIは耕作放棄地面積の減少を設定しています。

次のページ④林業の担い手の確保・後継者対策としては、安定的な経営と効率的な森林施業が必要であることから、森林環境譲与税の活用による森林施業の効率化などを行い、補助金制度などPRできるものを用いながら、市内外の方への情報発信をすることで、興味を持ってもらえる機会を作るという取り組みを行います。

KPIとしては、森林環境譲与税による団地化及び間伐面積の増加、尾鷲産材活用促進補助金申請件数の増加、パートナーシップ協定数の増加としております。

⑤林業の安定経営に向けた支援、林業を支える施設・基盤整備では、尾鷲ヒノキのPR活動を行い、市有林材を安定的に市場へ搬出、また、施業や搬出のための林業基盤の整備、保全を行います。KPIとしては、市有林材の搬出量の増加と林道橋数の増加であります。

次のページ⑥森林の保全と有効活用では、「カーボンニュートラル」の取り組みのなかでJクレジットの取得と受託造林管理事業の推進に取り組めます。

KPIは、Jクレジット認証取得面積の増加と作業道開設距離の延長となっております。

次のページ、⑦水産業の担い手の確保・後継者対策と水産業の安定経営に向けた支援では、漁業体験教室や早田漁師塾の運営支援など、漁業後継者従事者対策の実施と藻類・二枚貝の養殖試験への協力、技術支援による漁業従事者への支援に取り組めます。KPIは新規漁業就業者の増加です。

⑧水産資源の保護・増大と魅力ある漁村づくり、水産基盤の整備・保全では、藻場再生活動、種苗放流、アオリイカ産卵床の設置や体験学習会などの水産資源の保護・増大や、学生や学校関係者を対象に食育とともに魚食の普及にとりくみ、漁村の基盤となる漁港施設の長寿命化など水産基盤の整備・保全に取り組めます。次ページをご覧ください。KPIとしましては、本市の漁業総生産量の三重県に占める割合の維持、尾鷲ヒノキを利用したアオリイカ産卵床の設置基数、尾鷲湾6箇所、賀田湾8箇所の水質調査、調理体験の実施数の増加、ヒラメ種苗放流・アオリイカ産卵床づくり体験教室及び学習会の実施、市管理漁港数の増となっております。

次ページ⑨地域商工業の振興については、地域一体となった伴奏型支援の実施や商品の磨き上げとウェブ商談会などの販路拡大支援、人材育成セミナーの開催、小規模事業者への経営支援や新たな事業に対する起業支援などに取り組めます。

KPIは、有効求人倍率、販路開拓事業者数、ECサイトでの販売数、創業支援融資助成事業利用事業者数としております。

次のページ、⑩販路拡大・企業誘致の促進につきましては、ECサイトなどのインターネットを活用した新しい販路の拡大とそのための支援、在宅ワークやワーケーションなど新しい仕組みや取り組みの導入、中部電力尾鷲三田火力発電所跡地の活用などに取り組む、KPIは、販路開拓事業者数とECサイトでの販売数としております。

次のページ、⑪みえ尾鷲海洋深層水の安定分水及び利用促進では、地域の商品価値を向上させるための利用や、水産加工品、その他の産業分野での利活用、巣ごもり需要などから来る新しい分野への利活用などに取り組めます。

KPIとしては、使用料収入を上げております。

次のページ、(2)安心して働ける環境の実現、①UJIターンの推進では、移住の際における住まいや仕事など安心して移住し働き暮らすことのできる様々なサポートの充実に取り組めます。

K P I は、定住移住相談窓口での相談・問い合わせ件数としています。

次ページ、②地域おこし協力隊などの外部人材の活用促進では、地域課題の解決や地域資源を活用した地域での起業促進や、住者や外部人材と一緒に作る元気な地域づくり、外部人材の受け入れに対する良好な関係の構築に取り組みます。K P I は、外部人材によるコミュニティービジネスの事業化数としております。

これらの取り組みやK P I などについて、疑問点や、もっとこういうところが要るんじゃないか、要らないんじゃないかというところや、見ていただいた中で気になった部分など、どのようなものでも構いませんので意見をいただけましたらと思います。

(質疑・意見)

中西委員：

20ページのJクレジットとはどういったものですか。

芝山水産農林課長：

カーボンニュートラルというものの中で説明されているが、2050年度までに二酸化炭素の排出量を±0にする取組の一環。二酸化炭素を吸収することを現金化する仕組み。森林でのJクレジットというのは、尾鷲市が市有林91haをモデルとして、二酸化炭素の吸収量を現金化しようとするもの。その手続きを進めている。このモデル化ができれば、民有林まで広げていって、適切に管理された森林の二酸化炭素吸収量を企業に買っていただくことができる。企業は二酸化炭素をゼロにしていけないといけないという努力義務があるので、そのときに企業が買っていただけるようなクレジットを取得しようとしているもの。

松井座長：

企業がたくさんCO2を出したら、尾鷲市からクレジットを買っているからゆるしてくださいよ、ということですよ。

芝山水産農林課長：

木が二酸化炭素の吸収量を計算して、1トンいくらかで企業に買っていただく仕組み。

松井座長：

間伐とか植栽とかをやることになるので、森林を守ることにもなる。間伐とか植栽とかは、だれがやるのか。

芝山水産農林課長：

申請者、森林所有者が計画をたてて実行することになる。この場合は市有林なので市が森林経営計画を立てており、この計画の基づいた申請をする予定である。

山崎委員：

早田漁師塾は県外から参加の人もいるので、他の地域でもこのようなものを進めていくという案はどうか。

芝山水産農林課長：

早田や九鬼、梶賀でも市で漁業体験教室をやっているの、そちらでも体験ができる。

山崎委員：

今年は2人だけだったのか？応募の件数はどんな感じか。

芝山水産農林課長：

今年度は2名。

松井座長：

21ページで目標値が9人になっているが、第1期では13人だった。減らした理由はありますか。

丸茂調整監：

漁業体験ということで、いろんな人がきて、就職につながったということがある。離職率が低くて、継続して働いている。なので、現状で逼迫している状況ではなくなった、若返りはある程度進んでいるということで、毎年1人ずつとして計算している。

奥村委員：

21 ページは、累計値が9名ということでよかったですか。

丸茂調整監：

はい、毎年1人ずつ増えていくということで9人としている。

奥村委員：

やめていく人は？

丸茂調整監：

主な就業形態は定置網だが、企業で雇用という形になり、高齢等でやめていく人がいて、一方で若い人が入ってきて、若返りを図っていくという目的。船の大型化などで効率的な漁業をやっていることもある。

奥村委員：

24 ページで、EC サイトでの販売数が0から30というのは、まだ立ち上げてないということですか。

森本商工観光課長：

EC サイトは存在しているが、支援させていただく事業で改めてスタートして30にすること。

松井座長：

これは販売商品数ですか？その上は支援した事業者数ですか？その点を明記してほしい。そのページでは、人材育成支援は、セミナーなどを実施しとあるが、はっきりしない。協議会を発足させることを、スケジュールに入れる必要があるのではないか。

森本商工観光課長：

そのようにさせていただく。

塩津委員：

14 ページのスマート農業とはどういうものか？

芝山水産農林課長：

例えばですが、甘夏農家では超急傾斜地で作業するのが大変なので後継者不足につながっている。ドローンを使えば40キログラムまでの荷物を運ぶことができるようになっているので、作業負担を軽減できる。このような高機能な農業をやっていききたいということ。

松井座長：

15 ページの耕作放棄地面積が減る目標になっているが、これが適当かどうか分からない。現況の耕作地面積を書いて、その下に何%になるかを書いてほしい。

関連事業の説明を後ろのページに記載して説明してほしい。

16 ページのKPIで鳥獣捕獲頭数とあるが、市役所が全部を把握できるのか。報告件数というならわかるが、740頭という根拠が十分なのか足りないのかわからない。740頭が限度であるならわかるが、その根拠がある。報告件数というならそれでもよい。

17 ページ農地中間管理機構は、三重県農林水産支援センターが担っていると思うので、()書きで書いてもらったほうが良い。

週末兼業農家の推進とか、尾鷲独特の施策があったほうが良いのではないか。

18 ページのKPI 森林環境譲与税による団地化とあるが、活用森林面積を書いておくことが必要。

何%かを書く必要がある。

19 ページの KPI 市有林材の搬出量は、私有林全体の何%にあたるのか、搬出が全体の量がわからない。林道橋数は、全体でいくつ橋があるのか目安がいる。

23 ページあおりいかは、103 から 100 に減らすのか。これはどういうことか。

丸茂調整監：

数が多ければよいというものでも無く、場所と効果を考えた時にこの 100 基が良いと判断している。

松井座長：

5 年経っても数が変わらないような、そういうものを指標とする必要があるのか。

調理体験のクラスは市内に何クラスあるのか。全体の数字を記載してもらえるとありがたい。

16 ページ販路の開拓支援で、生産地での農業体験と ICT とは矛盾するので、ICT による疑似体験とか、整理してもらったほうがよい。

25 ページ延伸された高速道路の活用で、中京圏や関西圏の大都市圏をいきなり言っている。まずは三重県の中勢地域や北勢地域の積極的な販路開拓ということに記載したほうが良い。

【基本目標 2 について 事務局片原より説明】

それでは、30 ページ、基本目標 2「繋がりを築き、新しいひとの流れをつくる」について説明させていただきます。

次のページ(1) 移住・定住の推進①移住・定住情報の発信についてですが、関係人口づくり創出のためのサイトの活用やタイアップなどを行い、多様化する移住スタイルに合わせ情報発信の強化に取り組むとしております。

KPI には、定住移住に係る行政窓口を活用した定住移住者数を挙げております。

次のページ、UIJ ターンの推進では、本市で一定期間以上働くなどの条件で本市の貸与する奨学金が償還免除になる制度を利用することで、本市への就職につなげるため、制度の周知や PR に取り組むとしております。

KPI としましては、この制度の利用者数を挙げております。

次のページ、③市民の郷土への愛着・誇りの醸成④地域に開かれた学校づくりでは、高校生に対して、「尾鷲高校まちいく」の実施、小中学生には地域と連携・協働した教育活動を充実したふるさと教育を実施し、地域への愛着や誇りの醸成を図る取り組みを行うとしており、KPI は、「尾鷲高校まちいく」の取り組みにおける地域への関心度、学校生活満足度としております。

次のページ、(2) 繋がりの構築①関係人口の拡大については、観光客やふるさと納税寄附者などに対し本市の各種情報を積極的に情報発信し、さらに深く地域と関わるきっかけづくりを進める取り組みや、関係人口創出のためのポータルサイトを活用し、地域との関わりを地域の活力づくりに繋げる仕組みの構築を進めることとしています。

KPI は、クラウドソーシング実施数を挙げております。

次のページ、②外部人材と交流推進では「関係案内所」を拠点として、地域と関わりのある人材や、移住者や地域おこし協力隊などの外部人材と地域内でまちづくりを進めている人材などの交流促進を図る取り組みや、その中で生まれた企画やプロジェクトを拾い上げ、広く発信していくことで地域の活性化につなげる取り組みを行うこととしています。

KPI としましては、外部人材との交流会開催数を挙げております。

③企業版ふるさと納税制度の活用では、近年社会貢献活動などの一環での利用が進んでいる企業版ふるさと納税制度を活用し、支援を得られるような事業を HP や企業マッチングなどで広く周知・PR し、本市とつながりを持つ企業を増やす取り組みを行うとしております。

KPI は、企業版ふるさと納税件数と対象事業として周知する具体的事業数としています。

取り組みは以上となりますが、これらの取り組みや KPI などについて、疑問点や、見ていただいた中で気になった部分など、どのようなものでも構いませんので意見をいただけましたらと思います。

説明は以上となります。

(質疑・意見)

中西委員：

企業版ふるさと納税とは？どのようにして集めるのか。

三鬼政策調整課長：

一般的なふるさと納税と違い、事業に協賛してもらうもので、返礼品はない。

事業費を寄附していただくもの。

おわせ SEA モデル事業では、事業が始まっていないので基金としているものもある。

芝山水産農林課長

ヤフージャパンの脱炭素の取組事業に申込し、市有林での脱炭素活動に寄附していただいている。

海藻の陸上養殖の会社からも脱炭素活動に寄附をいただいている。

奥村委員：

33 ページで、尾鷲高校まちいくは、現在やっているのか。授業のコマとしてもらっているのか。

西村政策調整課参事：

地域が抱えている課題を解決するプログラムを実施して、地域の現状を知ってもらう。市役所が市内の問題をとりあげて、授業をやってもらっている。尾鷲の良さを知ってもらって、進学後にこちらに帰ってきてもらいたい、という思いもあってやっている。紀北町と共同でやっている。

奥村委員：

高校生全員にやっているのか。

西村政策調整課参事：

尾鷲高校プログレッシブコースの2年生を対象にやっている。

奥村委員：

地域に開かれた学校づくりというのは、どのような学校をつくることなのか。

森下教育総務課長：

地域学習とか職場体験等で、尾鷲市に愛着をもってもらうような教育を行っている。

塩津委員：

定住移住について、KPI の数字は希望が持てる。尾鷲に帰ってきたい、という希望が多い。定住移住するために就職のことも書いていただければと思う。

松井座長：

28, 31, 32 ページに移住定住のことが書かれている。東ねることができないかということが提案です。29, 34, 35 ページもまとめられないかな、と思う。関連してくると思われるので、2つに分ける必要があるのか。

事務局濱田課長補佐：

国の体系をもとにこのようにまとめさせてもらったが、独自性をだすのが市の戦略なので、まとめることを含めて検討させていただきたい。

松井座長：

34 ページのクラウドソーシングの実施は具体的に何を表すのか明記してほしい。

西村政策調整課参事：

関係人口づくりということで、NPO が「関係案内所」というものを3か年かけてつくっている。インターネットを使ったサービスやコンテンツをつくって、提案してもらって、その中から8つくらいの事業をつくっていきいたいということ。

松井座長：

実施事業数ということですね。

35 ページ外部人材との交流会とは？意味がわからない。市主催のことなのか。

西村政策調整課参事：

関係案内所を現在構築している。尾鷲暮らしサポートセンターが中心となって、いろんなサークル的なものをつくってもらい、移住者とかが興味のあるもののサークル的なものを意味している。

松井座長：

関係案内所の実施事業としての交流会ですね。案内所が実施するイベントですね。

西村政策調整課参事：

市と NPO と地域と移住者とでいっしょになってやっていく。

松井座長：

NPO の記載をカッコ書きでも良いので、記載していただくとわかりやすい。

36 ページ、具体的なアプローチを書いてほしいというのは酷かもしれないが、企業に支援してもらえ環境というよりは、継続的に企業から支援をうける環境というか、表現を変えたほうがよい。

奥村委員：

クラウドソーシング等とか、内容がわかりにくいので、説明があればと思う。

塩津委員：

余白のところに用語解説をいれてほしい。

事務局濱田課長補佐：

余白のところに用語解説をいれさせていただきます。また、KPI の説明も各課からの資料にはあるので、内容と出典ということでわかりやすい形で修正させていただきます。

【基本目標 3 について 事務局片原より説明】

それでは、37 ページ、基本目標 3「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、説明させていただきます。

次のページをご覧ください。

(1) 結婚・出産・子育てしやすい環境の整備①妊娠・出産・育児までの包括的な支援についてですが、出産、子育て期にわたる切れ目ない支援として、子育て世代包括支援センター「はっぴい」の充実や子育てサポーターの新規養成と活動支援、安心して妊娠・出産できる環境づくりとして、妊婦一般健康診査、産婦健康診査の実施、産前産後サポート事業体制整備を、健やかな子どもの発育・発達の支援としては、乳児家庭全戸訪問事業、乳幼児健康診査、子育てサークル事業の取り組みを行なうこととしております。

KPI といたしましては、子育てサポーター新規養成数と産前産後サポート事業実施回数が挙げられております。

次のページ、②地域で支え合う子育てと子どもの居場所づくりでは、身近な地域で子育ての援助活動の充実として、ファミリーサポートセンター事業の会員を増やす取り組みや、会員同士の交流を図る場を作る取り組み、会員の子育てに関する知識及び技術の向上を図る取り組み、保護者が気軽に集うことのできる居場所の充実として、地域子育て支援センターや認定こども園の子育て支援、相談体制及び子育てサポーター等の人材育成として、子育て支援団体を増やす取り組みを行うとしており、KPI は、ファミリーサポートセンター事業新規養成者数（累計）、未就園の 3 歳未満の地域子育て支援センターの利用率、活動している子育て支援団体数を挙げております。

次のページ、③子育て情報の発信強化・PR といたしましては、妊娠期からの子育て期に関わる情報発信として、子育て情報冊子を作成し、活用した情報提供と、それらの子育て情報の発信強化として市 Twitter の活用や、乳幼児健康診査、家庭訪問等を活用して子育て情報を提供することとしております。

KPI といたしましては、妊婦への情報冊子配布率を挙げております。

続きまして次ページ、④生涯教育・生涯学習活動の推進、子どもや親子を対象とした体験学習の推進では、地域資源を活用した体験学習等の実施として、体験学習やイベント等を通じ、子どもたちの豊かな心の育成に取り組むとしており、育み・見守る環境づくりとしましては、子育て支援団体と連携し、

体験学習や世代間交流の機会の提供を通じて、地域が子どもを育み、見守る環境づくりを推進する取り組みを行うとしています。K P I としましては、おわせっ子講座数とボランティアで活動した延べ人数を挙げております。

取り組みは以上となりますが、これらの取り組みやK P I などについて、疑問点や、見ていただいた中で気になった部分など、どのようなものでも構いませんので意見をいただけましたらと思います。

説明は以上となります。

(質疑・意見)

塩津委員：

子育てしやすい環境は、移住してくる方にも必要なことなので、これも必要。こども園とかは子育てしやすい環境に関係ないか。

山口福祉保健課長：

39 ページに地域子育て支援センターや認定こども園の子育て支援と書かせていただいている。認定こども園の特徴として、地域での子育て支援がある。一時預り、親子の集いということで交流を図る施設でもある。

奥村委員：

尾鷲では保育園の待機児童があるのか。

山口福祉保健課長：

待機児童はいない。

奥村委員：

医療費補助は何歳までか。

山口福祉保健課長：

尾鷲市では、中学生まで医療費の全額補助がある。

松井座長：

第1回の会議の際、山崎委員が言われた教育環境の充実という項目は入れたほうが良いのではないのか。

38 ページのスケジュールでは令和4年度が抜けているが、令和4年度からスタートできないのか。

39 ページのKPI で、未就園の3歳未満の地域子育て支援センターの利用率は%になっているが、何名くらいいるのか、人数を書いてもらえれば全体がつかめる。

全体にいえることですが、ファミリーサポートセンターとか、子育て支援センターとか、市の施設についても説明を整理していただけると良い。市民で知らない人もいると思うので。

41 ページの子育てHAPPYは英語だが、「はっぴい」もある。英語で良いのか。

三鬼生涯学習課長：

推進交付金活用事業として、こういうようなタイトルで行っている。

松井座長：

以前、不妊治療の費用の補助の話があったが、重要なので、38 ページに記載できないか。

40 ページで、養子縁組・里子制度についての施策ができないか。少子化対策を全面的に押し出す必要があるのではないか。

中西委員：

子育ての範囲は14歳までなのか。小さいうちはいろいろな施策があるが、大きくなった子どもへの支援がないのでは。働くおかあさんが、大きな子どもへのケアがあったらよいと思う。

東健康づくり係長：

ここには就学前や小学校がメインに書かれているが、実際にはやっている。ここに落とし込めるよ

うな検討をしたいと思います。課題として持ち帰ります。

奥村委員：

40 ページの KPI 妊婦への情報冊子配布については、基準値、目標値ともに 100%は KPI としてはどうかと思う。また、配布するだけでなく、見ている人の満足度の向上のほうが良いのではないか。

松井座長：

同じように思う。家庭訪問による相談件数とかの具体的な数字にできないかと思う。

東健康づくり係長：

実際産婦と新生児訪問は全戸訪問している。もう少し別の形でと思って、満足度とかのデータをとれるものがないとか検討したが、出来ずにここに至っている。ご意見をもとに持ち帰って検討する。

三鬼政策調整課長

市としては、児童生徒と言いますと 18 歳未満を対象に支援させていただいている。

【基本目標 4 について 事務局片原より説明】

それでは、42 ページ、基本目標 4「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる」について説明させていただきます。

次のページをご覧ください。

(1) 活力を生み、安心な生活を実現する環境の確保①公共交通の確保・維持改善では、より効率的かつ効果的な公共交通の確保として、ダイヤ、路線等の見直しや、輸送規模に合わせた系統の見直し、他の分野との連携などにより、公共交通の維持、確保に取り組み、同時に MaaS などの先進技術を積極的に検討し推進する取り組みを行うこととしています。KPI としましては、ふれあいバスの利用者満足度、ふれあいバス収支率を挙げております。

次のページ、②公共交通の利用促進では、利用者の獲得や観光客等の利用促進のため、「バスの乗り方教室」や関係団体と連携しながら観光イベントなどと連動させ、公共交通を活用してもらえらる取り組みを行うこととしています。

KPI としましては、ふれあいバス利用者数、ふれあいバスの観光拠点での乗降客数としております。

次のページ、③地域資源を活かした観光まちづくりの推進では、セラピスト同行のツアーを開催するなどの着地型観光の実施や、関係団体と連携しながら観光資源の整備やバトロール、また、火力発電所跡地の活用に取り組むこととしています。

KPI は、ツアー実施回数を挙げております。

次のページ、④観光施設の整備・充実としましては、観光トイレや三木浦マリパーク、野鳥の小径、夢古道おわせなどの受け入れ施設などの環境の整備を行うこととしており、KPI は、最も多い夢古道おわせ入込客数を挙げております。

次のページ、⑤新しい生活様式に対応した観光客・インバウンドの誘客促進では、尾鷲ならではの地域資源や食を活かした魅力ある情報発信や、日本在住外国人インフルエンサーなどを活用した情報発信、コロナ禍に対応した観光施策へのシフトなどの取り組みを行うこととしています。

KPI といたしましては、熊野古道来訪者数及びイベント参加者数を挙げております。

次のページ、⑥観光プロモーションの推進においては、イメージ向上につながる観光プロモーションの実施として、体験メニューなどの観光商品作りや目的地として選んでもらえるような取り組みと、旅マエ・旅ナカ・旅アトにおける情報発信の取り組みを行うとしており、KPI は、体験メニュー回数を挙げております。

次のページ、⑦生涯スポーツの推進では、スポーツ団体が主催する教室、大会等への支援や、総合型地域スポーツクラブの育成とともに、健康増進へつなげる取り組みを行うこととしております。

KPI につきましては、教室数、スポーツ団体による延べ大会開催数、スポーツクラブ数を挙げております。

次のページ、⑧競技スポーツの振興では、スポーツ少年団の体験会や教室等の開催、指導者の人材育成、指導体制づくりに取り組むこととしており、KPI は、体験会・教室の開催、スポーツ少年団数、スポーツ推進委員数を挙げております。

次のページ、⑨スポーツを通じた交流の促進では、世代間交流を目的とした大会等の開催や市外の団体との交流、また、近隣市町と連携した中で今後予定されている「おわせ SEA モデル構想」におけるス

スポーツ振興ゾーンを活用した取り組みも行うこととしております。

K P I といましては、世代間交流事業実施数、地域間交流事業実施数を挙げております。

次のページ、⑩地域の歴史文化の継承については、関係団体等と連携して、歴史文化に関する講座、企画展示等の開催、小中学生の郷土愛の育成に組み、文化財の適切な保存・管理、情報発信については、後世へ継承するための調査、パトロール、活動の支援や文化財リストなどを作成し、情報発信に取り組むとしています。

K P I には、歴史文化に関する教室、講座の延べ開催数、企画展示の開催数、文化財の調査、パトロールの実施数を挙げております。

次のページ、⑪文化・芸術活動の支援、文化施設の有効活用では、自主サークル活動に対する相談、広報、発表の場の提供などの支援や、社会教育関係団体の認定などを通じた市民団体への支援、また、関係団体と連携しながら講座や文化展等の開催を行い、質の高い文化・芸術にふれる機会の創出の取り組みを行うこととしています。

K P I は、社会教育関係団体等の認定数、中央公民館ロビー展、文化展等の開催数を挙げております。

次のページ、⑫地域包括ケアシステムの推進では、身寄りのない方の医療に係る意思決定支援の体制構築に向けて検討や、広域的な支援体制の構築への取り組み、ACP について、講座やサロンなどを開催し普及啓発する取り組みを行うこととしております。

K P I としましては、多職種研修開催回数、ACP 住民公開講座開催回数としております。

次のページ、⑬高齢者福祉の推進では、自主的な活動の支援として、受診勧奨や健康相談の実施、集いの場、介護予防教室の支援を行い、認知症に関しては、サポート体制の充実を図る取り組みを、地域の担い手育成としましては、住民ボランティアの育成と活動体制の構築、また、地域における見守り体制や生活支援サービスの充実に取り組むこととしています。

K P I は、介護予防教室参加者数、スクエアステップリーダー数、認知症サポーター養成講座受講者数、担い手育成講座参加者数、生活支援ボランティア登録者数を挙げております。

次のページ⑭健康づくりの支援としましては、健康教室等の開催や検診結果を活用した生活習慣病重症化予防などでバランスのとれた食生活の定着化の推進し、また、健康体操、健康ウォーキング等の自主組織活動を支援することで、運動の定着化を推進、これらの基礎ともなる検診についての周知や方法などの見直しを行うことにより受診しやすい検診にする取り組みを行うこととしています。

K P I としましては、健康体操等自主組織活動実施回数、肺がん検診受診率としております。

次のページ、⑮DX の推進では、ソサイアティ 5.0 の基盤を構築するため、まずは行政内部の DX や市民サービスの向上に向けた取り組みを行っていくこととしています。

K P I につきましては、庁内での新しい DX の取り組み数を挙げております。

取り組みは以上となりますが、これらの取り組みや K P I などについて、疑問点や、見ていただいた中で気になった部分など、どのようなものでも構いませんので意見をいただけましたらと思います。

説明は以上となります。

(質疑・意見)

塩津委員：

57 ページ、無料でできる健診に力を入れるように強く書いていただければと思う。特定健診、尾鷲市は受ける人が少ないようなので、強く書いてほしい。PR していても受診率が低い。

松井座長：

57 ページの KPI ですが、健康体操等自主組織活動実施回数とあるが、自主組織の意味付けですが、市が認定したものとか、限定するものがあるのか。

東健康づくり係長：

健康増進計画に明記されているもので、市で教室等実施したあとの卒業生が自主活動に移行した方々が実施したものと位置付けている。運動の習慣をしていただくための自主組織活動となっている。

松井座長：

それらの方々の団体が行った回数ということですか。市民の方がわかりやすかったら良い。このページだけ文章に○がないので入れておいてほしい。食生活の実践とあるが、改善の実践というように

書いてほしい。

塩津委員：

前にも思っていたが、健康づくりは特定検診の受診率の向上を目指し、健康増進の推進が必要だということの記載をお願いしたい。

奥村委員：

43 ページふれあいバスの利用者満足度は 100%ということですが、利用者からアンケートをとって、利用者ではない方からのアンケートではないですね。

三鬼政策調整課長：

乗車されている方からとったアンケートです。

奥村委員：

利用者の満足度は高いと思う。市民全体の満足度を上げるためには、市民の意見を取り入れて満足度をあげていくのか。満足度を上げるためには、観光客に対して今のルートでよいのか等ないのか。

三鬼政策調整課長：

現在、公共交通の基本計画を議論している。各地区を回って住民の意見を聞いて、まとめる段階に入っている。実際にどのようなルートでどのような運行をすれば持続可能になるか、いろんなご意見がある中で、交通計画の作成を進めている。その結果も含めて整理したい。

事務局濱田課長補佐：

満足度の基準値は 2 点が満点。不満はマイナス 2 点としている。わかりにくいので改めるように検討する。

松井座長：

基準を書いておかないとわからない。

43 ページの新たな技術を市にどのように定着させるかですが、44 ページも含めて、スマートフォンの利用を徹底するというのではないか。ワクチン接種もスマホ。使用率を 70%くらいにするとかが基本ではないか。いきなり AI とかキャッシュレス化とかあるが、もう少しわかりやすい指標があるのではないか。スマホを利用して、ワクチン接種証明の発行率を何%にするかとか。スマホを用いて行政サービスをまず浸透させるとか。そういうことで満足度を図るとか、身近なところの発想で語れないかと思う。外国人も利用できるので、誘客にもつながる。

事務局濱田課長補佐：

表現については見直したい。スマートフォンを活用した決済とかになると、高齢者ではお金で払うのが良いので、そういうものは導入しないでくれという意見もある。15 か所の地区で意見を聞いたときに、バスの乗り方がわからないという方が多かったので、スタートはそういうところをやって、その先に MaaS とかをやらせていただきたいと思う。

松井座長：

ギャップが激しい。IT でバスの乗り方をやる、というならわかる。

45 ページの KPI ですが、着地型観光とか維持保全活動とかを書かれているが、草刈りとかの維持活動に参加した人数とか、イベントの回数、整備の箇所とかを KPI にできないのか。

46 ページは、委託します、運営しますと言い切ってしまうと、それで終わってしまうので、委託します、運営しますという表現はやめたほうが良い。管理を適正に行いますとか、施設として運営しますとか、その結果、委託するとか指定管理する結果となっているだけであって。

47 ページの 4 大イベントとはなにか。

森本商工観光課長：

下に書いてある 4 つ。

松井座長：

尾鷲の人は、4大イベントでわかるのか。

森本商工観光課長：

従来から4大イベントと表現している。

塩津委員：

44ページのふれあいバスは、観光としての利用はあるのか。

三鬼政策調整課長：

最近は、問い合わせがある。地元の方の利用が多いが、観光拠点での利用がある。

事務局濱田課長補佐：

夢古道に定期的に来られている方がいる。実質の観光客というよりは、夢古道に来られている方の利用のほうが多いのではと思う。ただし、問合せはある。

塩津委員：

総合病院の前にふれあいバスが止まるようになるのか。

三鬼政策調整課長：

安全確保と利便性向上のため工事が行われている。上りはおとと前でそのままだが、下りは全て総合病院前になる。

奥村委員：

48ページの旅マエでは、行ってみたいと思わせる動機づけとあるが、どのようなことをやるのかわからない。旅マエなので、VRとかICTとかを利用できないのかと思う。

森本商工観光課長：

必要な情報をということ。VRとかの技術をもってないので、SNSを活用や公社と連携して、公社のHPにスケジュールの仮設定など旅マエ情報など構築されているので、ご案内するようにしたりしている。

松井座長：

行目に体験メニューづくりとあって、KPIでは体験メニュー回数となっているが、体験メニュー数ならわかるが、回数というのはわからない。メニュー数なら、「数」と直したほうが良い。旅マエならHPの閲覧回数とかはKPIにいれられないのか。

森本商工観光課長：

閲覧数は検討させていただきたい。メニュー回数は適切な言葉にさせていただきたい。

松井座長：

51ページ世代間交流事業というのは、新規で起こすというのでよいのか。

三鬼生涯学習課長：

コロナで実施できなかったということがある。世代間交流というのは、少年団と敬老会とかを想定している。令和2年度はできなかったが、継続してやっていきたいということ。

松井座長：

新しい取組をいれるのであれば、できるかぎり民間主導でやるのが良いと思う。50ページにこれだけの団体があるように、尾鷲市では主体的に動かれている方が見えるということなので、既存の組織と協賛してまかせていくというのが、お金もかからないし良いのでは。新規というのは、工夫が必要。

三鬼生涯学習課長：

おっしゃる通り、民間の活動を行政がサポートしながら、こういう交流の機会を充実させていきたいと考えている。

【基本目標の指標について】

松井座長：

目標指標は2つ選ぶのか。

事務局片原主任：

2つ以上と考えている。

松井座長：

必要がないものを、×すればよいですか。

事務局片原主任：

他にもあれば、ご指摘してほしい。

松井座長：

納税義務者数はありますか？

事務局濱田課長補佐：

人口シミュレーションでの人口の減少幅を減らすのが目的であると思うので、それにつながるようなものであったほうが良いと思う。

松井座長：

就業者数、法人数、事業所数、市内総生産額は、ありますね。下の2つがいるかどうか。

塩津委員：

現状値があれば、わかりやすい。

松井座長：

次回までの宿題にしてほしい。

外国人人口はつかめているのか。

塩津委員：

定住・移住のための情報発信をしていかないといけないと思うので、そのような内容をいれておいてほしい。

3 その他

松井座長：

次回3月中に修正したものを皆さんにお配りして確認するための会議をもたれるということなので、よろしくお願ひします。欠席された方には、今日のことをお伝えしていただきたい。これをもって、終了します。

以上